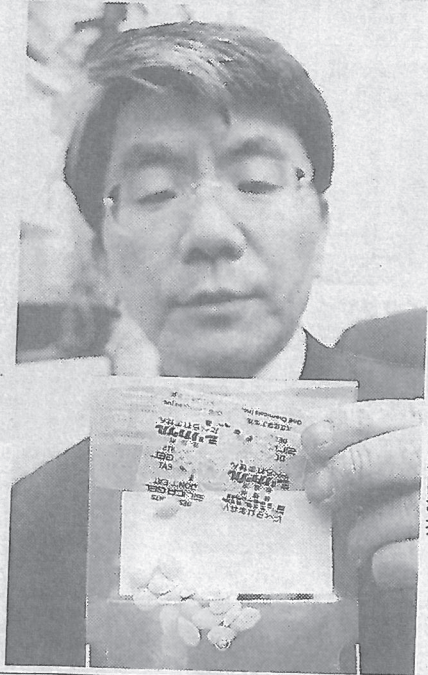


# 宇宙カボチャどんな味

宇宙滞在したカボチャの種を持つ実岡教授



## 広島大に種届く 小学校配布へ

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」で約8カ月半過ごしたカボチャの種が15日、東広島市の広島大

に届けられた。大学で増やし、各地の小学校に配る。宇宙滞在が植物にどのような影響を与えるかなど、子ども

の好奇心を育てる。航空写真の撮影を手掛ける国際総合企画（東京）などが進める事業。観賞品種「ペボ

カボチャ」の種約350粒（約20袋）は昨年11月、スペースシャトルで打ち上げられ、実験棟で保管された。

広島大学院生生物園科学研究科の実岡寛文教授（植物栄養生理学）には17粒届けられた。普通のカボチャの種と形や色は同じ。来年春から大学の精密実験ほ場で育て、秋に採種する予定という。

種を増やす協力をしているのは、広島大や鳥取大など全国16の研究機関。来年以降、周年記念を迎える小学校などに配る。実岡教授は「研究者にとつても未知の領域。子どもには宇宙カボチャを通して想像力を膨らませてほしい」と期待する。

（下久保聖司）